

小沢一郎や枝野幸男らの「政権交代がないぬるま湯活羅を見て政界入りを志した民主党の若手議員。両極端と書える二人を追いながらの試行錯誤が続く。」
(敬称略)
枝野らと同様、中選挙区

▽決意 枝野幸男二十九歳、前原誠司三十一歳、野田佳彦三十六歳。

一九九三年七月の衆院選。地盤、看板、カバンの「三パン」を持たない青年が日本新党から続々と誕生するシンボルをテレビで見ながら京大生だった衆院議員細野憲志は「おれにもやれるのでは」と国政挑戦を決意した。

すでに細野は「政治家」を意識してはいた。政治改革を掲げて自民党を離党、新生党を結成して衆院選に臨んでいた小沢の著書「日本改造計画」に目を通し、大きく心を動かされていた。自ら責任一國家からだ。「自己責任一國家への転換、大胆な規制緩和による経済活動の自由化」。特に目を奪われたのは

制度で物を言う三パンを持つ。たない細野にとって小選挙区制度は「当選可能性」をもたらす。何より小沢の主張には政権交代に現実感を与え「力」があった。細野は新生党に一票を投じて

鮮明な部分、左から細川護国首相(当時)、細野憲志衆院議員、小沢一郎新生党代表幹事(当時)

挑戦の系脈



民主の単独政権獲得へ 若手らの試行錯誤続く

年寄、偽メール問題で前原ら。浮かれるのは早い」とが辞任した後も引き続き小沢代表に任せ、若書ではなく笑物に影響を受ける。

「おまえの言うことは政權とえ取ればなんぼでもできる。今、野党の立場で中途半端になにかするのではなく、政権交代にすべてをかける」

この年夏、都内の居酒屋。ある法案の扱いについて与党との妥協を切り出した細野を制して小沢はこう言い切った。小沢は翌〇七年七月の参院選で勝利、与野党逆転を果たし、政局の主導権を握ることに焦点を定めた。「対決路線」を貫徹し、

後、結成した新進党を解散、自由党で与党入りしたが、衆院選前に離脱していた。細野は枝野、前原らのグループに属し、〇五年九月には代表となった前原の下で役員部長となった。〇六年は「政権交代はこれか、試行錯誤は続く」

▽気迫

細野はシンクタンク勤務を終業院選前に離脱していた。

▽危機

参院選投票開票の今年七月二日、十九日夜、ボードに当選確実の赤いバラが咲き乱れ、大勝の喜びに沸く民主党本部に小沢は姿を見せなかつた。選挙戦の疲労による論争がその理由だったが、細野は「政権交代はこれか、試行錯誤は続く」